

# みんなの質問 ～さあ、ミライの話をしよう～



従業員が感じる「現状(今)」と会社の「将来像(未来)」を「繋ぐ場とする」  
「サステナブル」について大塚さんが神林社長に聞いてみた！

大塚さん

- 人と地域を繋ぐ取り組みが推進され、一部の従業員のサステナブルへの関心が高まっています。一方で、サステナブルの取り組みが対外的に、認知されていないと感じています。今後、丸井三越としてサステナブルの取り組みを対外的に発信方法や、新たな取り組みなどで計画していることはありますか？

神林さん

- 「サステナブル」の取り組みには17個の目標があります。17個の目標を皆の手を携えて、70億人全員で達成するために頑張ろうという目標です。
- 70億人で達成するゴールを一企業、一個人に落とし込むのは難しいです。17個の目標を1人で背負い込むには重く、全部背負わなければいけない、という事ではありません。
- 「おもてなしリーダー」になるとういう、大きなメッセージを共有しています。「おもてなしリーダー」になることがサステナブルの取り組みに繋がります。
- 「おもてなしリーダー」になるには「プロ化」をお願いしています。
- プロになるという事は、商品を作られた方の文化・歴史・技術など背景を知らなければなりません。得た知識をお客さまに伝えることが、サステナブルの取り組みになります。
- 店頭で「おもてなしリーダー」になり、お客さまに最適な提案を行い、買い物をしたお客さまは買った物を長く使ってください。「4R」です。
- そうすることで、次の買い物を減らせるかもしれません。「リデュース」
- 新しいものを買おうと思ったときに断れるかもしれない。「リフューズ」
- 商品が使えなくなってしまっても、「リユース」、「リサイクル」を行うことができるかもしれません。
- 4Rに貢献するのは、「おもてなしリーダー」、「接客のプロ」。
- 小売業の中では、上質な商品を扱っている百貨店は大きく貢献できていると思っています。
- サステナブルの取り組みを世の中に伝えていくのは難しいと思っています。HDとしては、SDGsに関わる取り組みや、二酸化炭素の削減目標など記載された、サステナビリティレポートを毎年出しています。札幌丸井三越として、宣言の仕方を検討しています。
- その中で、**取り組みの一つに入れたいのが「北海道」です。**自然豊かな「北海道」と世界を繋ぐ1つの企業としての丸井三越という切り口を入れたいと思っています。具体的にはこれから考えていきたいと思っています。
- サステナブルというのは、継続する事です。丸井三越が元気に企業として継続することが第一条件になります。
- 「サステナブル」の考え方と、企業として取り組む「おもてなしリーダー」の考え方が分かれているのではなく、一連の流れで「おもてなしリーダー」を追求することがサステナブルの皆に誇れる取り組みになると思います。

神林さん

- スタッフもできることがたくさんあるとあって、「総務」や「人事」など様々なプロがいます。「人間らしい暮らしをしよう」など、「ワークライフバランス」を整える時にスタッフのプロの取り組みで早く帰れるようになったとなると「おもてなし」になります。
- 後方部門で毎日お客さまに接していないから、サステナブルに関係ないわけではありません。資源や経費の削減を行うことで、貢献できることはたくさんあります。店頭以外の方もサステナブルの「おもてなしリーダー」という軸を1つ持って業務に取り組んでほしい。

木村

- SDGsには「誰一人取り残さない」という原則がある中で、全員で取り組む必要があるということですね。

神林さん

- 「全員取り残さない」という事は難しく、なかなかできる事はありません。70億人で取り組んでいく約束なので、小さな積み重ねで、明るい将来に繋がると考えます。**何に取り組んだら良いか考え始めた時点でサステナブルの取り組みがスタートしています。**これが三越伊勢丹の「think good」というテーマです。
- エレベーターのボタンを押そうか、電気をつけようかという迷いでも良いです。
- 会社としての取り組みは皆の知恵を借りながら、考えていきますが、「北海道」を軸として、さすが丸井三越らしいサステナブルな宣言を考えていきたいと思っています。

大塚さん

- **物を買うことはゴミを生み出します。でも、ちょっとした工夫でサステナブルな売り方ができると思っています。お客さまに袋に入れるか聞き、お客さまは選択ができ、拒否することでゴミを減らし、サステナブルに繋がると思っています。個人で考えるのは難しいのでお店の中で決め、皆がサステナブルの取り組みを実感して接客できると思います。**

神林さん

- 選択をしてもらうことは大事ですね。考えることがサステナブルな取り組みには大事になります。
- 勇気が少し必要です。今までの百貨店の包装があります。コンビニでは、「このままでいいですか？」と聞かれますが、百貨店のお客さまには上手な一言を添えて選択してもらう、一言を一緒に考えよう。

木村

- **百貨店の当たり前があり、そこから脱皮してお客さまへの伝えなければなりません。伝え方が難しく感じます。一人の従業員だけが取り組むと、お店の中で一貫性がなくなります。**

神林さん

- 筋が通ってなければいけません。場所が変わることで、取り組みが変わることは良くありません。

大塚さん

- **お店が経費削減をしているとお客さまに思われてしまうのは逆効果になりますし、バランスの取れた取り組みはないかと思っています。**



選択をしてもらうことは大事だね  
考えることがサステナブルには大事



社長インタビューの内容、  
今後取り上げて欲しいテーマ等、  
こちらからアンケートにお答え  
ください



発行所：三越伊勢丹グループ労働組合  
北海道統括支部 札幌丸井三越支部  
外線：(011)205-2525 内線：22525  
発行人：木村 正男

組合HPが新しくなったうさ！  
＜ログイン方法＞  
ID：53+8桁の社員コード  
PASS：生年月日（例：20220501）



■公式マスコットキャラクター  
「イングちゃん」

インタビュー動画はこちら